

結婚式に疑似友人役の派遣契約って、どういうこと？

30数年前頃にも既に、いわゆる便利屋が孤独で淋しい高齢者から疑似子どもを依頼されて一日疑似家族として過ごすことは知っていた。

先日何気なく見ていた報道特集番組の中で、疑似恋人、疑似友人等の派遣会社の実態を取り上げたコーナーがあった。

疑似恋人とは、恋人と海水浴行くことを夢にもつ青年が、10時間で2万円の契約で一日疑似恋人として話すことのみで過ごすというもの。

派遣会社は、万一事件にならないようにと、依頼主の身元の確認はさせてもらうとか。

疑似友人とは、新郎には友人がいないので、結婚式に6人の友人役を派遣会社に依頼し、6人で一日15万円で契約。

披露宴の席は会社の上司と同じテーブルなので上司から話しかけられて疑似友人であることがばれないように、カップルで親しく話していれば上司が話しかけてくると間がないだろうと、6人は3組のカップルとして出席を会社が工夫。しかもこの疑似友人のことは、新婦は知らず、新郎のみが知ることとか。

ちょっと考えただけでも、先々新婦だって式に出席してくれた友人のことを話題にすることって当然あるだろうに、隠し続けていつか気づかれるのではないかとビクビクして神経を使う新婚生活は大変。

また、取材に応じた派遣会社は健全な会社なのかもしれないが、もし悪徳を企む会社だとこのことをネタに先々ゆすられるとも限らず、どうしてこんな単純・明快なことに思いが至らないのだろうか。

人生の一大イベントの結婚式で新婦にすらウソで繕うような考え方の新郎だと、「結婚生活が長続きするはずがない。」とつい思ってしまう。

コミュニケーションが苦手なため親しい友人がいない若者が増えてきているとは聞いてはいたが、ここまで疑似恋人、疑似友人を依頼する若者が居ようとは…(@_@) また、それをカバーする商売があろうとは…(@_@)

時代が物質的に豊かに便利になり、また、多様になればなるほど、孤独な人間が増えて行くということなのか？

「生きていく→人間関係→コミュニケーション」だけに、日頃から周りの方々とのコミュニケーションに工夫し心懸けることこそ、大事なことでないだろうか。

今一度、コミュニケーションするってどういうことか、自らが生きていくことはどういうことかを若者たちに自問自答してもらいたいし、周りにヒントを求める勇気をもって欲しいと思う。